

志賀町と金大院研究科 予防医学で連携協定



予防医学での連携協定を締結した志賀町の庄田義則副町長(左)と金沢大学院先進予防医学研究科の中村裕之科長＝志賀町文化ホールで

志賀町と金沢大学院先進予防医学研究科は九日、予防医学で連携する協定を締結した。期間は二〇二一年までで、同科が町民へのアンケートや検診などを通じて個人の特性に応じて食生活や運動を指導。画一的ではない保健指導プログラムの開発を進める。欧米に比べて後れを取る予防医療の発展に役立てる狙いだ。

両者は一二年から連携し、町内の二地区を対象に調査や検診を行ってきたが、今年四月に先進予防医学研究科が新設されたことに伴って新たに協定を結んだ。これまで行ってきた年四回のアンケートや検診を拡大して続け、それぞれに合った健康法の指導によって「日本一健康なまち」を目指す。こうした協定を結んでいるのは県内で志賀町のみ。

金沢大は、日本が抱える医療費の増大化や健康寿命

の短さといった問題を背景に、一二年から千葉大、長崎大と共同で予防医学の研究や人材育成を推進。人口が減る志賀町、都市化が進む千葉県柏市、離島の長崎県五島列島など特徴のある土地を主なフィールドとして共有している。

町文化ホールであった調印式では、同科の中村裕之科長が「大学間の連携もあり、最先端の技術をもって志賀町を日本一健康なまちにする」とあいさつ。庄田義則副町長が「町の健康づくりに関する各種事業をさらに充実して推進できる」と、小泉勝町長のメッセージを読み上げた。

基調講演では、中村科長や金沢大病院の蒲田敏文院長ら四人が協定の意義や過去五年の成果などを発表。町の保健推進員と母子保健推進員の委嘱状交付式もあった。任期は二年。

(榎原大騎)